

平成 28 年度事務事業評価表(公共事業・継続)

No. 456

事務事業名	特殊地下壕対策事業
-------	-----------

作成日	平成 28 年 9 月 30 日		
部局名	都市整備部		
課名	河川公園課		
課長名	浦山 弘幸	内線	426
担当者名	馬場 洋平	内線	435

基本目標	030101	安全・安心なまち
政策		災害に強いまちづくり
施策		防災対策の推進
関連施策		

会計	1	一般
款	8	土木費
項	1	土木管理費
目	1	土木総務費
事業コード	050000	

事業類型	7	施設等整備事業(負担金含む)
個別計画		
重点事業		

【PLAN(計画)】

対象(者) 誰(何)に対して事業を行うか	地下壕		
意図 対象をどのような状態にしたいか	市内には、戦時中に築造され放置された防空壕が多く存在している。その中には、壕内に容易に出入りができるものや、経年変化で、将来、崩落や陥没の危険性があり、上部の家屋、道路、耕地、山林が不安定なものとなっている箇所も存在する。戦後処理として、行政が恒久的な防災工事を実施することより、地区住民の貴重な生命と財産を守り、安全で安心な暮らしを確保する。		
事業概要 意図を達成するために実施することは何か	事業箇所:富の原一丁目、二丁目(H17完了) N=3箇所 L=1,682m 地下壕内発泡モルタル充填L=1,239m、V=1,244m ³ 地下壕取り壊しL=436m 中里地区(H25完了) L=48.5m 地下壕内セメントベントナイト V=119m ³ 事業箇所:市内一円(H17~H18) N=50箇所 地下壕口仮封鎖 事業箇所:市内一円(H19~H28) N=25箇所 地下壕内全発泡モルタル充填L=876m、V=3,006m ³ N=27箇所 地下壕口発泡モルタル充填L=135m、V=1,012m ³ N= 1箇所 地下壕内全セメントベントナイト充填 L=48.5m V=119m ³		
事業期間	平成 17 年度 ~ 平成 28 年度	実施方法	直営

成果指標名	危険地下壕の防災対策実施率				算定式等 恒久的防災工事完了箇所/市内危険特殊地下壕×100
着手前現状値	平成 23 年度	単位	%	32	
完了後計画値	平成 28 年度			100	

【DO(実施)】

事業実施項目	25年度まで	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	全体計画
基本計画	実績・計画額							
	項目別進捗率							
実施設計	実績・計画額							
	項目別進捗率							
用地・補償	実績・計画額							
	項目別進捗率							
建設工事	実績・計画額	137,865				1,000		227,396
	項目別進捗率	60.63%	60.63%	60.63%	60.63%	60.63%	61.07%	61.07%
事務費等	実績・計画額	8,019						13,607
	項目別進捗率	58.93%	58.93%	58.93%	58.93%	58.93%	58.93%	58.93%
合計	実績・計画額	145,884	0	0	0	1,000	0	241,003
	項目別進捗率	60.53%	60.53%	60.53%	60.53%	60.53%	60.95%	60.95%

年 度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	全体計画
① 事業費(千円)	14,717	0	0	0	0	1,000	0	241,003
国庫支出金	7,245							108,274
県支出金								
地方債	5,600							63,600
その他								
一般財源	1,872					1,000		69,129
② 人件費(千円)	2,793	0	0	0	事業内容	事業内容	事業内容	B/C
職員人数(人)	0.32							
時間外勤務(時間)	125							
嘱託等人数(人)								
フルコスト(①+②千円)	17,510	0	0	0				

※財源内訳中の「その他」には、保険料・寄付金・基金・利用料等の収入を記入しています。

【CHECK(評価)】

事業の進捗状況 昨年度の評価から、どのような取組をしましたか(昨年度の【ACTION】の改善・改革の進捗等)	平成24年で新たに要望した箇所が補助採択となり、平成25年度で対策工事が完了し、地域住民の安全な暮らしを確保することができた。
事業が抱える問題・課題等	現在確認出来ている地下壕の内、補助対象事業で実施できる箇所は平成25年度で完了した。今後は、劣化が進んでいる壕口封鎖の補強を補助事業では対応できないため、財政状況を考慮して進めていく必要がある。

妥当性	【必要性】	高い	やや高い	やや低い	低い	該当なし	
	戦後処理の一環として、終戦後長年放置され、崩落・陥没の危険性のある防空壕を埋め戻す防災対策を実施することにより、地区住民の貴重な生命と財産を守り、安全で安心な暮らしを確保する。						
有効性	【緊急性】	高い	やや高い	やや低い	低い	該当なし	
	先般、鹿児島市で起きた痛ましい人身事故が発生する危険性がある為、立入防止柵の設置を緊急に実施する必要がある。構造的に崩壊の危険性がある25箇所については、上部に家屋、公道がある。						
効率性	【コスト】	削減の余地なし		削減の余地あり	該当なし		
	発泡モルタル充填工法を採用する等、コスト縮減に努めるほか、さらに公共コスト縮減に取り組む。						
効率性	【負担割合】	見直しの余地なし		見直しの余地あり		該当なし	
	防空壕が現存する土地は、ほとんどが個人所有地であるが、戦時下の国策として、旧軍及び地方公共団体の命令で掘られたものであり、戦後処理の一環として自治体の負担はやむを得ない。						

【ACTION(改善・改革)】

今後の方向性	その他の見直し
--------	---------

内容 今後の方向性のもとで、どのような取組をするか(課題や問題点等に対する取組など)	平成17、18年度に実施した立入防止柵は、簡易的なものであり老朽化している為、コンクリート等での入口封鎖が必要である為、今後の財政状況を勘案して事業の推進を検討する。併せて、国に対し補助採択要件の緩和を要望する。
効果 事業の改善・改革によって期待される効果は何か	壕口封鎖により、市民の安全を確保する。

1次評価	今後の方向性	担当者意見のとおり		2次評価	対象外	今後の方向性
	終期設定				終期設定	
	意見等				内容	

※1次評価は事業担当課長等、2次評価は2次評価委員会によって行われます。